



## ごあいさつ

この多彩で魅力ある「ふるさと神奈川」をさらに素晴らしいものにして、将来の世代に引き継いでいきたい。こうした830万県民の共通の願いをのせて、「かながわ新総合計画21」がスタートします。

みどり濃い山々、きらめく海、歴史と文化の香りが漂うまちなみなど、それぞれの地域が特色ある歴史と風土に彩られており、産業の面でも、日本経済をリードしてきた活力ある地域です。私自身、このふるさとの豊かな表情を見るにつけ、その明るい未来の到来を確信しています。

間もなく21世紀を迎えますが、我が国は人口の少子・高齢化をはじめ、国際化、産業構造や人々のライフスタイルの変化、そして、価値観の多様化など、大きな時代の流れの中にあります。もちろん、私どもの神奈川も例外ではありません。むしろ、常に時代の変化が鋭敏にあらわれる土地柄だけに、その影響は大きいと言えるかもしれません。

県では、こうした時代の動向をしっかりと見据えながら、将来への確かな道筋を示し、「活力ある神奈川、心豊かなふるさと」を築いていくために、新しい県政運営の指針として、この計画を策定いたしました。

計画の策定にあたりましては、総合計画審議会で長期間にわたり熱心なご審議をいただくとともに、県議会でもさまざまな角度からご論議をいただきました。また、県民の皆様や市町村の方々からも、9千件を超えるご意見やご要望をお寄せいただき、計画づくりに反映させることができました。そうした意味で、この計画は、県民の皆様の未来への夢や希望に向かって、歩いていくための架け橋であり、ここに盛り込まれた施策・事業の一つひとつが光輝く結晶体のようなものであると考えております。

私としても、今後、行財政改革をすすめ、県政のスリム化を図るとともに、「かながわ新総合計画21」の誠実な実行を通じて、この計画のめざす「成熟した市民社会」の形成に向け、県民の皆様や市町村の方々と手を携え、全力で取り組んでまいります。

今後とも、皆様の温かいご理解とお力添えをお願い申し上げます。

平成9年3月

神奈川県知事 岡崎 洋



## ごあいさつ

21世紀の初頭には、日本は人口のピークを迎え、やがて減少していくことが想定されています。また、インターネットに代表される情報革命は、地球規模で進展し、世界のボーダレス化が一層進展することが予想されます。

このことを経済の面から見れば、かつてのような高い経済成長・拡大を期待することは難しく、世界的競争の中で新しい処方箋が求められています。こうした中で、日本が活力を保っていくためには、これまでの社会・経済のシステムを根本から改革していくことが必要です。

当然、そのような構造改革には、様々な痛みを伴うこともあるかと思いますが、不透明な時代をむしろチャンスとしてとらえ、民間の創意と工夫を生かしながら、草の根レベルからの自己革新を積み上げていくことが改革の原動力となると考えます。

その意味では、これまでも時代のトップランナーの役割を果たしてきた神奈川が、今日のような変革が必要とされる時代に、地域から新しい社会のあり方を描き、先導していくことが大いに期待されています。神奈川にはそのための豊かな蓄積が備わっていると思います。

幸い私は、21世紀の神奈川の将来方向と道筋を明らかにする新総合計画の策定のお手伝いをすることができました。その過程では、県民や市町村の参加が重視され、皆様から様々なご意見をいただきました。総合計画審議会では公聴会を開催して、県民の方から直接、ご意見を聴く機会もありました。

これらの大変数多くのご意見、ご提案は、新総合計画への期待を表すものであると思います。また、私たちの審議や県をあげての策定作業の強い励ましにもなったと思います。

これからも時代の変化は止むことはなく、厳しさも増すものと思いますが、県と市町村と県民とが力を合わせて、生まれたばかりの子どもであるこの計画を大事に育て、柔軟に、しかし粘り強く計画を実行していくことで、神奈川から新しい時代を切り拓きたいと心から願っています。

平成9年3月

神奈川県総合計画審議会会長 香西 泰